

授業科目名	パフォーマンスアート概論	担当教員	藤野 一夫 児玉 北斗 李 知映 深澤 南士実 富田 大介
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年第1クォーター		
講義内容	この授業の目的は、「パフォーマンスアート」についての視野を広げながら、その諸事例に生命的な脈絡を見出すことで、このアート（芸）に関する基礎的な理解を得ることです。授業の内容は、主として前半に、生き物の求愛や威嚇、人のデモや演説、パフォーマンスを、後半に、伝統芸能や舞台芸術を扱う予定です。ある存在が他の存在を意識して営む芸を、そのコンテキストとともに紹介・考察してゆきます		
到達目標	ある表現が「パフォーマンスアート」と言われるに際してのポイントや、諸事例の個性について説こうとする意欲を持つことができる		
授業計画	01：オリエンテーション【富田】（【児玉】【李】【藤野】） 02：動物や昆虫の振る舞い【富田】 03：人間の踊りや演技【富田】 04：示威運動、政治演説【富田】 05：（ポスト）パフォーマンスアート【富田】 06：現代社会とコンテンポラリーダンス【富田】 07：映像としてのパフォーマンスアート【富田】 08：復習と到達度チェック（授業内試験）【富田】 09：試験の講評と解説、質疑応答、フランスの宮廷バレエ【富田】 10：北米や北欧の現代舞踊【児玉】 11：韓国の伝統芸能【李】 12：ドイツの楽劇【藤野】		
事前・事後学習	授業毎に指示します（事前・事後学習として週2時間程度）		
テキスト	特に指定しません		
参考文献	高橋雄一郎、鈴木健編『パフォーマンス研究のキーワード～批判的カルチュラル・スタディーズ入門』、世界思想社、2011年（初版）ほか、適宜紹介します		
成績評価の基準	平常点 60%：毎回の授業中の様子や発言、およびリアクションペーパーの質をもとに判定 平常試験 40%：授業内試験		
履修上の注意 履修要件	初回のオリエンテーション時に授業の進め方や成績評価などの説明をします		
実践的教育	該当しない。		
備考欄	この授業は富田と児玉、李、藤野のオムニバス（1-9が富田、10が児玉、11が李、12が藤野の予定）です		